

2022年1月11日

JARC の ESG 投資

— ESG 債への投資が 100 億円に到達 —

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（以下「JARC」）では、ESG 投資を開始後丸3年が経過し、累計の投資額が100億円に到達しました。持続可能な社会の実現に貢献するため、今後も積極的にESG投資を推進していきます。

ESG 投資が100億円に到達

JARCが自動車ユーザーの皆様からお預かりしている自動車リサイクル料金は、自動車リサイクルを通じた環境保全が用途として定められた資金で、本来的に持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

また、近年は世界的に気候変動リスクが上昇し、日本国内でも、台風や集中豪雨などによる自然災害が頻発するなど気候変動によって生じる問題は喫緊の課題となっています。

さらに、この度の新型コロナウイルスの感染拡大を契機として、様々な社会課題も顕在化しています。

このような大きな環境変化を踏まえ、「自動車リサイクル料金の運用を通じて持続可能な社会の実現にさらに貢献していきたい」との思いから、2018年にESG投資を開始し、これまで継続的に取り組んできた結果、投資開始から3年が経過した2021年9月には、累計の投資額が100億円に到達し、2021年12月末時点では、図表1のとおり、計12の発行体に対して164億円となっています。

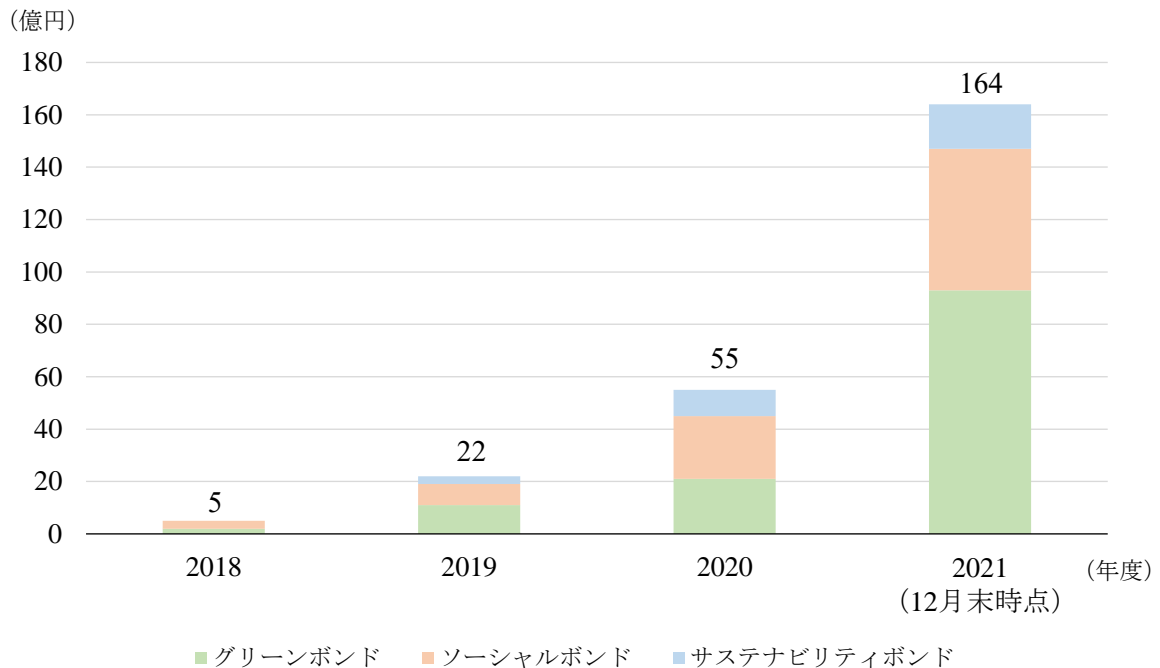
内訳は、グリーンボンドが93億円、ソーシャルボンドが54億円、サステナビリティボンドが17億円となっています。

発行体別では、財投機関債が81億円、地方債が18億円、政府保証債が65億円となっており、財投機関債については、2018年12月の独立行政法人国際協力機構（JICA）のソーシャルボンドをはじめ7つの発行体に対して、地方債については、2018年10月の東京都のグリーンボンドをはじめ5つの地方公共団体に対してESG投資を実施してきました。（政府保証債については、2021年9月に発行された独立行政法人住宅金融支援機構のグリーンボンドが該当します。）

2021年12月時点で保有するESG債の一覧は、図表2のとおりですので参照ください。

2022年度からは、これまでの財投機関債、地方債、政府保証債に加えてESG債に限り社債への投資も計画しており、多額の資金を運用する機関投資家として社会的責任を果たすとともに、ESG債市場のさらなる発展にも寄与したいと考えます。

(図表 1) ESG 投資の累計実績の推移



ESG 投資における投資基準

自動車リサイクル料金の運用は安全・確実に行うことが重要です。従いまして、現在、新たに取得する資産は、国債、政府保証債、地方債、財投機関債など安全性の高い資産に限定し、元本確保を前提としています。

JARC の ESG 債への投資基準として、ここでは次の 3 点を挙げます。

1 点目は、「資金使途の明確さ」です。資金使途は「なぜ、その発行体は ESG 債を発行するのか」という発行の目的そのものに大きく関わります。発行の目的や資金使途を見ることで、「どのような社会を実現したいのか」という発行体の理念も読み取ることができます。資金使途が大項目から小項目まで具体的かつ明確にブレイクダウンされているかどうかポイントの一つになります。より詳細に把握したいと考える場合は、IR (Investor Relations) などの際に、発行体に対して直接質問もしています。

2 点目は、「環境や社会に対する改善効果」です。ESG 債である以上、「その債券にはどれだけの環境改善効果や社会的なインパクトがあるのか」という点が重要となります。また、投資家としては、「その債券に投資することで、どれだけ社会に貢献ができるのか」という点も必要不可欠です。環境改善効果や社会的なインパクトが期待できる債券に限り投資することを意識しています。

3点目は、「ガイドライン等への適合及び第三者機関による評価」です。まずは、国際資本市場協会（ICMA）のグリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則、サステナビリティボンド・ガイドライン、または環境省のグリーンボンドガイドラインに則って発行されていることを求めます。加えて、これらいずれかの原則またはガイドラインに適合していることについて、第三者機関から評価を受けていることも重視しています。

(図表 2) JARC が投資している ESG 債の発行体の一覧

(2021 年 12 月末時点)

種別	発行体	ESG 債の種別	主な資金使途
地方債	東京都	グリーンボンド ソーシャルボンド	気候変動への適応 公共施設の防災対策
	神奈川県	グリーンボンド	河川の緊急対応
	長野県	グリーンボンド	クリーン輸送
	川崎市	グリーンボンド	グリーンビルディング
	北九州市	サステナビリティボンド	汚染の防止及び抑制
財投 機関債	(独法) 国際協力機構	ソーシャルボンド	途上国のインフラ開発
	(独法) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	サステナビリティボンド	離島航路の整備
	(独法) 住宅金融支援機構	グリーンボンド	省エネルギー性に優れた新築 住宅を対象とした住宅ローン
	(独法) 福祉医療機構	ソーシャルボンド	福祉医療施設への貸付
	東日本高速道路 (株)	ソーシャルボンド	高速道路の災害復旧
	東京都住宅供給公社	ソーシャルボンド	高齢者の居住の安定
	沖縄振興開発金融公庫	サステナビリティボンド	沖縄の森林環境の保全

債券投資家としてエンゲージメントを積極的に推進

JARC では、発行体とのエンゲージメント（建設的な対話）を積極的に推進しています。

一般的に、エンゲージメントは株式の分野で先行していると言われますが、債券の分野においても、エンゲージメントを広げることが日本のサステナブルファイナンスにとって重要であると考えます。JARC は、多額の資金を運用する債券投資家の先駆けとして、持続可能な社会の実現に貢献するべく、発行体とのエンゲージメントに注力しています。

これまでに JARC がエンゲージメントを実施した発行体は、図表 3 のとおりで、2020 年 7 月に実施した独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構をはじめ、2021 年 12 月までに 5 つの発行体で実施してきました。

(図表 3) JARC が実施したエンゲージメントに関する発行体の一覧

(2021 年 12 月末時点)

実施年月	発行体（上段）及び主な対話内容（下段）
2020 年 7 月	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（JRTT）
	運輸部門が占める CO ₂ の排出量及びその削減努力について https://www.jarc.or.jp/renewal/wp-content/uploads/2020/07/420f393d1a1ac52c349a2de9355370cb.pdf
2020 年 11 月	東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）
	「切迫する巨大地震・津波や激甚化する気象災害へのリスク軽減」という社会的意義について https://www.jarc.or.jp/renewal/wp-content/uploads/2020/07/7513ea39471b7f332352630574160a54.pdf
2021 年 3 月	独立行政法人国際協力機構（JICA）
	「開発途上国を中心とした海外における自動車リサイクルのインフラ構築」という国際貢献に向けた事業協働について https://www.jarc.or.jp/renewal/wp-content/uploads/2020/07/9657443c4d4ea983229eb7eefcd9540f.pdf
2021 年 9 月	川崎市
	川崎市の脱炭素戦略である「かわさきカーボンゼロチャレンジ 2050」について https://www.jarc.or.jp/renewal/wp-content/uploads/2020/07/3028cd791df4e8773c5b8d2a1cc83430.pdf
2021 年 12 月	長野県
	気候変動がもたらす自然災害の激甚化及びその対策について * 2022 年初旬に JARC の Web サイトにてレポートを公開予定

以上